

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

登ってよかった太二岩

神山小学校 五年 水谷 愛菜

登るぞ、太二岩!

太二岩に登るのは、初めてだったのよ、ド  
キドキワクワクした。

Aグループ、Bグループに分かれて、さあ、  
出発だ。まず、最初に出会ったのは、さつき  
つり橋という橋だ。ふつうに歩いてもゆれな  
かったのよ、  
「せーのっジャンプ」

1  
No. 1  
と云って、みんなで大ジャンプした。そのと  
たんに、橋はグラグラゆれて、みんなで大笑  
い。橋をぬけると、そこには、日の光をあび  
て光っているたくさんの木の葉。その下を歩  
くのは、とても心が落ち着く。すると、ヒメ  
シヤラの木が顔を出した。まるちゃんが、  
「ヒメシヤラは、昔、クレーンとして使われ  
ていたんだよ。ヒメシヤラはこけがきらい  
で、こけがつくと、皮をはぐんだよ。」  
と教えてくれた。わたしは、さわってみた。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

～ 月 日 曜日

ぬれていてよくわかんなかったけど、昔の人は、とても気持ちが悪かったんだなあと思っ  
た。  
すこし歩くと、くぐり杉に会った。くぐる  
ときにねがいを心の中で言うのかなうという  
ので、ねがいを心の中で言った。かなうとい  
いなと思いながら、先へ先へと進んでいった。  
大きな石が見えた。足を石にかけ、登って  
いった。すると、しかがひよこ、と顔を出し  
た。いきなりだったので、びっくりしたけれ  
ど、かわいかったのでじつとみつけていた。  
そのとき、外国の人と出会った。みんなで  
勇気を出して、聞いてみた。  
「ウエアリー アイユール フローム」  
と聞いた。すると、にっこり笑って、  
「アイム フローム ドイツ」  
と答えてくれた。  
昼食はみんなと合流した。みんなでテーブ  
ルを囲んで食べた。  
「できたて屋のべんとうおいしいね」

No. 2

- 3 詩ほどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

「うん。」  
 とみんなで楽しく食べた。冷たい山の水で手  
 をあらいに、出発だ。  
 「あれ、一人いない。」  
 「みんなでさがすと、しかの宿にかくれてた。  
 「みっけ。」  
 今度こそ出発。石を登っていくと、きゅう  
 な坂がまちうけていた。  
 「はあ、はあ。」  
 みんなつかれてく。光のさす方へ一歩一歩  
 ふみだす。  
 「ああ、ついた。」  
 初めて見た太二岩。風がすずしくおでむかえ。  
 「がんばって登ってよかっただ。」  
 と思った。岩をたたいてみると、ポソッポソ  
 ンとなった。  
 家に帰ったらすぐ、みんなに体験したこと  
 を伝えたい。そして、あのすばらしい自然が  
 いっぱいの太二岩に、また登りたい。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

